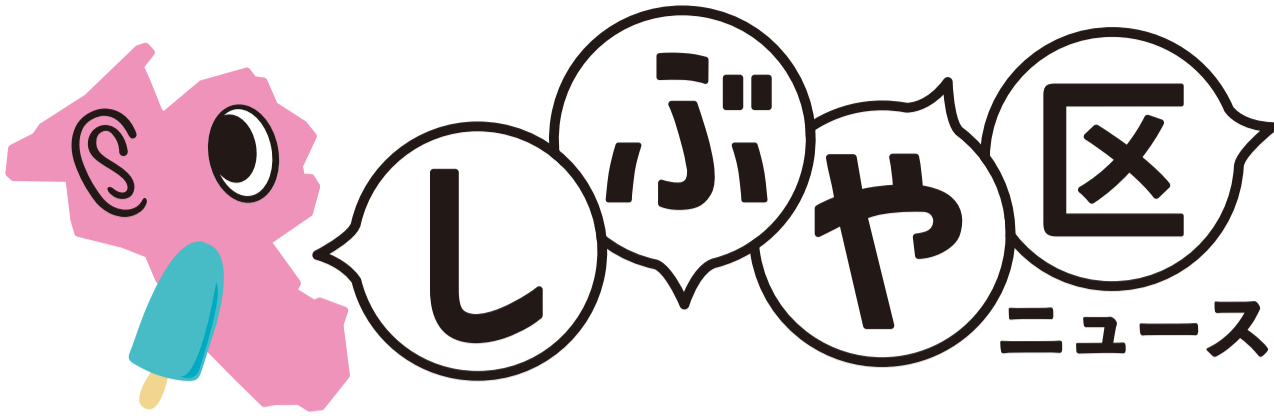


顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

令和2年
(2020年) 7月1日

No.1440



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)
HP | www.city.shibuya.tokyo.jp/
Twitter | @city_shibuya
Facebook | @shibuya.city
Instagram | @city_shibuya_official
LINE | @shibuyacity



児童青少年センター フレンズ本町の皆さん

(インタビューは2月26日に実施)

人とつながるきっかけをつくる。

地域に愛される、子どもたちのふれあいの場。

2	地域に開かれた、	4	後期高齢者医療制度	6	特別区職員Ⅲ類・経験者・就職氷河期世代	9	くらしの情報
3	子どもが主役の児童館。	5	令和2年度の保険料が確定しましたほか	8	採用試験を実施しますほか	11	

渋谷区基本構想が掲げる渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

地域に開かれた、子どもが主役の児童館。

渋谷のラジオで出張インタビュー

多くの子どもたちが集う児童青少年センター フレンズ本町で働く皆さんに、施設の魅力やイベントの考え方、地域で果たす役割などについて聞きました。

※インタビューは2月26日に実施しました。

それぞれの子どもに合わせたサポートを。

児童青少年センター フレンズ本町はどのような施設ですか？

須藤：旧渋谷区児童福祉センターの老朽化による建て替えで、平成28年にオープンした施設です。アリーナ(体育館)、ローラースケート場、図書室、工作室、音楽スタジオ、ダンススタジオなどがあります。利用できるのは、区内在住・在学の18歳以下で高校生までの人とその保護者です。また、地域の各団体での利用や区内在住の60歳以上の人が利用できる地域交流センター本町と、認定こども園「本町そよかぜこども園」も併設しているので、世代間の交流も生まれています。

五十嵐：各スタジオは団体登録をしていただければ、子どもたちだけでも利用可能です。学校の文化祭で演奏するバンドの練習をしたいから、と音楽スタジオを使う子どもたちもいます。

稲毛：アリーナでは、バスケット部の高校生が部活後に練習をしに来ることもありますし、自由に遊んでいる子たちもいます。また、月に1回ボルダリングのプロの講師を招いて「親子でボルダリング」というイベントも開催しており、アリーナのクライミングウォールを使って体験することもできます。

赤島：僕は主にローラースケート場で子どもたちと接しています。ここは小学校1年生から利用でき、スケート靴やプロテクターを無料で貸し出しているのも、何も持っていない人や、初心者でも安心してチャレンジできます。必ず専門のスタッフが付いて、靴の履き方や滑り方、止まり方を教えます。もっと上達したい子には、スピードを競ったり、ホッケーに挑戦したり、一人一人に合わせてサポートしています。

年間を通じてさまざまなイベント、企画を実施されていますね。

須藤：基本的には子どもたちの長期休みに合わせてイベントを企画しています。例えば、昨年10月は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会から正式種目になったスケートボードとスポーツクライミングに触れるため、代表候補の選手を招いて幼児から小学生まで体験できる教室を開催しました。また、劇団による演劇や人形劇の鑑賞会も開催しています。

「きっかけ」「つながり」「活動促進」が企画の柱。

体を動かすものから文化的なものまで、幅広いんですね。企画を立てるときのポイントはありますか？

須藤：全ての企画において大切にしているのは、「きっかけ」「つながり」「活動促進」という3つの柱です。フレンズ本町で開催するイベントや教室は、全てこのいずれかを意識しています。

稲毛：僕はダンススタジオに携わることが多いのですが、毎年度、2期に分けて、継続して子どもたちが通えるダンス教室を開いています。単発のイベントではなく、目標を立てて達成するところまでやり切ることで、今後の自信につなげてほしい、と考えて企画をしています。

羽角：2人制のバスケットボールなど、少人数でもできるフレンズ本町が独自にアレンジした競技の大会をフレンズカップ、と呼んでいるのですが、最近はポッチャでこのフレンズカップを実施しました。小学校1年生から6年生までの20人ほどが、年齢を問わず同じゲームを楽しみながら交流できました。

五十嵐：子どものうちにいろいろなものに触れて、経験することで、今後の人生で長く付き合っていくような好きなことや、自分に向いていることなどを見つけてほしいですね。

違う学校に通う子どもたちの間でも、交流が生まれていますか？

五十嵐：一緒に遊んでいるうちに、いつの間にか仲良くなっているな...という子どもたちを目撃することはたくさんありますね。

赤島：以前、カードゲーム大会をやりたいと言った高校生がいたのですが、準備や当日の受付対応などは5人ほどの高校生に任せて、僕はサポートに回ることにしました。その結果、当日は世代



児童青少年センター フレンズ本町 館長 須藤拓也さん

地域と連携して子どもたちを見守っています。



児童青少年センター フレンズ本町 主任児童厚生員 五十嵐力馬さん

子どもたちに自分の好きなことを見つけてほしいです。



児童青少年センター フレンズ本町 主任児童厚生員 稲毛直也さん



児童青少年センター フレンズ本町 主任児童厚生員 赤島幸至さん

話を聞いてくれる大人がいるので、安心して遊びに来てください。



児童青少年センター フレンズ本町 児童厚生員 羽角莉帆さん

を超えて交流しながら、企画・運営なども上手にこなしてくれました。小学生が15人ほど集まってトーナメント戦になり、年齢、学校を問わず試合を通じて仲良くなっていましたね。

須藤：本来、児童館のあり方は、こんなふうに子どもたちが主役になれる場所であることが理想的だと思います。もちろん、安全のために大人が運営することも多いですが、運営面でも子どもたちに任せられるところは積極的に任せていきたいですね。日頃からスタッフには、子どもたちが来たら、まずは何も聞かずに一緒に遊んであげて、と伝えています。信頼してくれれば、子どもたちの方から「こんなことがしたい」と伝えてくれるようになる。大人からアプローチをするのは簡単ですが、子どもたちに本音で接してもらい、自主性を育むことを優先しています。

子どもだけでなく大人、そして地域に開かれた場所へ。

施設を利用している保護者の反応はいかがですか？

赤島：最初は親に連れられてローラースケートを始めた子が一人で練習に通うようになり、その後、親子教室で子どもを見た親が「うちの子、いつの間にかこんなに滑れるようになって」と、成長を実感して驚かれることは多いです。

羽角：フレンズ本町では、1歳半から年長までの子どもたちとその保護者を対象にした親子体操教室を開催していますが、ここでは保護者同士の交流が生まれていると感じます。

稲毛：子どもが保育園に通っていないご家庭や、一人で子育てをしているご家庭など、なかなか子育ての悩みを相談できる機会がない人たちが、親子体操教室を通じて悩みを相談し合ったり、助け合いが生まれやすくなる場になっていますね。

五十嵐：フレンズ本町を我が家のように思ってくださる親御さんも多いです。子どもたちだけでなく、親にとっても安心できる場所になればうれしいです。

世代間の交流の様子はいかがですか？

須藤：毎年11月に、児童館の文化祭であるフレンズ・フェスティバルを開催しています。ここでは地域交流センター本町の「シニアクラブ」が和踊りを披露したり、フレンズ本町の子どもたちがバンドやウクレレを演奏したりと、3施設の複合だからこその世代間交流があります。昨年は1,000人もの人たちにご来場いただきました。

地域とのつながりで意識していることはありますか？

須藤：子どもたちをたくさん目で見守り、包括的にケアするためには、私たちだけでできることは限られています。だからこそ、民生委員や町会と連携をとったり、清掃活動や防災訓練に積極的に参加したりと、地域の一部であるということ意識しています。

最後に、区民の皆さんへのメッセージをお願いします。

須藤：児童館を利用できるのは子どもたちですが、地域に開かれた施設ですので、大人にも地域の子どもたちの様子をぜひ見に来てほしいですね。

五十嵐：子どもたちが安心して居場所でありたい、といつも思っています。自分の好きなことを見つけれられるかもしれないので、まずは遠慮なく遊びに来てほしいです。

稲毛：大きくなるにつれて来なくなる子も多いのですが、それでも「覚えてる？」と、大学生になってもひょっこり顔を出してくれる子もいるんです。ここでの楽しい思い出を大人になっても覚えてくれていたら、それが大きな存在意義になると思っています。これからも「ここにあり続ける」児童館として、子どもたちをサポートしたいです。

赤島：進路や将来のことなど、親には相談できない、学校の先生にも言いづらい、という悩みがある子もいると思います。話を聞いてくれる大人がここにはいるので、安心して遊びに来てください。

羽角：一緒に遊んで、話を聞いてくれるお兄さん、お姉さんがいますし、どの年齢の子でも楽しめるようなイベント、教室を企画しています。ぜひ遊びに来てほしいですね。



▲屋上のローラースケート場でのホッケー

児童青少年センター フレンズ本町 ☎3377-5160 ☎3377-5162 場所 本町 6-6-2

※開館状況については区のHPをご覧ください。お問い合わせください。

フレンズ本町の皆さんのインタビューは7月7・14日に「渋谷の星」で放送します。

広報コミュニケーション課広報係 ☎3463-1287 ☎5458-4920

渋谷区の番組を放送中です

ラジオ しぶや区ニュース (10分間) 月～木 11:00/16:00/21:50 「しぶや区ニュース」の情報を発信します。

渋谷の星 (45分間) 火 11:15 渋谷区で活躍する人たちが登場します。

渋谷のくらし (30分間) 火 16:20 地域の催しなどの様子を伝えます。

ラジオ しぶや区ニュース (区長の部屋ほか) (10分間) 金 11:00/17:00/19:50 長谷部健 渋谷区長が出演します (ラジオしぶや区ニュースの内容になる場合あり)。

渋谷区 × 渋谷 とは？

「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数: 87.6MHz FM ☆公式アプリでも聴取可能

所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876 FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/